

令和4年度第2回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和4年7月20日（水）午後1時から3時10分

場所：白井市役所東庁舎3階 会議室302・303・304

出席者：【委員】

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、鎌田 元弘委員、松本 千代子委員、
中野 七生委員、宇賀 弘通委員、宇賀 博委員、酒井 啓史委員、
若旅 千秋委員

【事務局】

津々木企画財政部長、池内企画政策課長、武藤係長、多納主任主事、
高橋主任主事

戦略1-1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり

齊藤秘書課長、小島都市計画課長、藤川建築宅地課長、
飯田上下水道課工務係長

戦略3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり

岡田市民環境経済部長、齊藤秘書課長、金井産業振興課長、
小島都市計画課長、鈴木道路課長、鈴木公共施設マネジメント課長

傍聴者 3名

1. 開会

2. 議題

(1) 外部評価（勉強会（質疑応答））について

○戦略1-1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり

【会長】

勉強会（質疑応答）について、事務局から進め方の説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

それでは、戦略1-1についての質疑応答を始めさせていただきたいと思います。出席の委員の皆さん、事前に質問等をお寄せいただいて、担当からお答えをいただいておりますけれども、その辺の確認とか、あるいはさらに踏み込んだ御質問、あるいは他の方の御質問等も踏まえた上で何か聞きたいこと等があれば、自由にお尋ねをいただきたいと思います。

ます。どなたからでも構いませんので、御質問、御発言等をお願いしたいと思います。

【委員】

事前の質問事項で、みどりに包まれたゆとりある環境とはどんなものですかということでお答えいただきました。低密度住宅地区の南園等、このまちづくり計画を策定したということで、その中で道路ネットワークとか、いろいろこれからの進め方とか述べられているのですが、ここは調整区域なので、3-1で御質問させていただいたところもあるのですが、インフラ的に、いわゆる住むために例えば水とか排水とか、ここで災害に強いまちづくりというテーマを掲げておまして、現在、この低密度住宅の指定したところはちょっと違うのかもしれないのですが、富士地区は雨水対策で今、雨水排水管を整備しているのではないかということをお聞きしたことがあります。

そういった中で、ある意味、各課の連携といいますか、例えば用地が取得できて、場所が決まって、それから道路とか建ぺい率とか、いろいろな都市計画の中でどういったものをつくっていくかというのが多分決まっていくと思うのです。その辺の各課の進めていくスケジュール的なものはまだ計画されていないのか。事務事業評価シートで、まだ目標とかは設定されていないので、そこまで行っていないのかなとは思ったのですが、その辺のことの現時点の進み具合、また進めようとしているところの今、計画地とか、考えがありましたら、教えていただけますでしょうか。

【会長】

よろしくお願いたします。

【都市計画課長】

低密度住宅地区につきましては、以前は千葉県条例に基づきまして民間の開発等ができましたので、一定の基準を満たせば住宅開発等ができるような区域となっております。そのために、委員がおっしゃられましたような道路だったりしますと、例えば行き止まり道路が増えてきたりというような問題も生じておりました。行き止まり道路については、通過交通を排除できたりしますので、静かな住環境の形成という点ではメリットはあるのですが、ネットワーク性という考え方からすると、十分な機能を発揮できていないという面もございましたので、今回、低密度住宅地区において住宅開発の際に、事業者が整備するための開発区域内の道路が、既存の道路とネットワーク化して形成できるような形を、誘導方針を策定していこうというところで取り組んでいるところです。

指標を設定していないというようなお話が委員さんからもございましたが、おっしゃるとおりで。当該方針は、事業者による開発区域内の道路整備を誘導するためのものですので、具体的な目標設定はしていないところとなっております。

【会長】

今の御回答でよろしいですか。お願いします。

【委員】

公共がやるべきことの計画などは、いかがなのでしょう。事前質問で別のところを質問させていただいたら、非常に下水とか水のことを詳しく説明いただいたので、反対にこのところの、調整区域なので、県営水道でいくのかとか、もしくは、たしか計画でいくと、下水は公共下水でやるようなところに地区として指定してあるのか。その辺のインフラ的ではないですけども、住みやすい環境を整備するための事前の今後やらなければいけないことは、その辺は、例えば用途地域などの指定などから見て、もう決まっているのかどうか教えていただければ。

ただ、調整区域なので、例えば調整区域は下水がないとかいろいろあるのですけれども。この富士地区で低密度住宅をやるときは、どのような整備の姿がイメージされるのか、分かる範囲で結構です。

【下水道課工務係係長】

上下水道課が担当しているのが上水と下水道になりまして、今、下水の汚水につきましては、下水道認可区域を取得した箇所については、100%整備済みでございます。

雨水につきましては、現在、富士地区の市街化区域を認可取りしまして、下流側の神崎川最上流部から雨水のボックス管を今現在、整備を進めているところでありまして、来年度ぐらいから計画をさらに進めまして、八幡神社から、さらに雨水管を整備していく計画で今進めているところであります。

上水道につきましては、現在、市街化区域内の管については整備済みでありまして、市街化調整区域は、住宅が開発等で建っているところについても、整備を進めて完了しているところであります。

【会長】

ネットの接続の調子が悪いようなので、会場にいらっしゃる副会長に進行をお願いして、オンラインの出席委員は質問をするという形に切り替えたほうがスムーズに進むと思います。いかがでしょうか。

【事務局】

それでは、進行を副会長にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

【副会長】

私が進行係ということで進めさせていただきます。そうしましたら、皆さんから、他に意見等を頂ければと思いますが。

私も、今の件で質問をしたいのですけれども。というのは、白井市においては、市街化調整区域があって、なかなか南園以外はこういう住宅等が建てられるところがないということ以前から聞いておりました。今回ここに、南園のところはこういう形で2014年に県から権限委譲を受けて、この低密度住宅地区というのが設定されて、そこにこういう住宅地が今進められているということです。今後も市として、こういう取組をしようとするれば、市街化調整区域を変更して、低密度住宅と言うのでしょうか、そういうものを設定してい

くことが可能ということなのではないでしょうか。その辺を伺いたいと思います。

【都市計画課長】

低密度住宅地区に、都市マスタープラン等の改定の際に、低密度住宅地区のエリアを広げていくということは、手法としては可能性としてはあるのですが、人口減少社会というようなところも踏まえますと、今のところ、具体で低密度住宅地区を調整区域で新たに増やしていくような予定というのはないようなところでございます。

【副会長】

分かりました。制度として可能だけれども、今、白井市としては、人口も6万5,000人を目標にしていたけれども、6万3,000人がピークで減り始めているという中で、今後どのように考えていくかということで、可能性はないわけではないけれども、今のところは計画がないというふうに理解すればいいですか。分かりました。

続きまして、皆さんから御質問とかありましたら、いかがでしょうか。

【委員】

事前質問とはまた別の質問というか、新たな質問なのですけれども。取組1のところの富士地区に公園の面積が不足しているということで、富士公園を整備するというので今進捗していると思うのですけれども。ちょうど同じ富士地区には、富士中学校予定地というのがあって、結局、富士中学校は建てないということで、富士南園広場か何かという名前に変わったと思うのですけれども。今度、その富士南園広場も公園としては使えるような広さもあるのですけれども、富士公園とどうリンクを今後していくのか。あと、同じような広さの公園が富士地区に二つあるのも、どうなのかなと思ってまして。そちら、富士南園広場は、今後も例えば民間に売り渡して、いろいろな住居とかそういうふうにしていったほうがいいのかなど思っているのです。その辺、ちょっとずれている話なのかもしれないですけれども、富士南園広場の今後の予定というか、使い勝手、用途は何か考えているのかどうか教えていただきたいと思います。

【副会長】

分かりました。富士南園広場、富士中学校の跡地が、サッカーや野球をしているところがありますが、これと富士公園との関係性、あるいは将来性どうですかという質問かと思いますが、いかがでしょうか。

【都市計画課長】

今回整備しております富士公園につきましては、既存の富士の市街化区域で公園敷地面積が足りていないところもございまして、新たな公園を整備しているようなところになっております。

委員がおっしゃられましたように、富士南園広場が今あって、広場として活用されているようなところではございますけれども、こちらの広場を今後どうしていくかというところについては、まだ具体の方向性は決まっていらないようなところになりますので、今後検

討していく必要があるのかなと考えているところです。

【副会長】

よろしいでしょうか。全く別のものですかということですね。

【委員】

もう一個。ちなみに、先ほど委員もおっしゃられたように、土日とかはよく野球チームとかサッカーチームが使っているのですけれども、あそこは使用料というのは取っているのですか。

【都市計画課】

管理しているのが生涯学習課になるのですが、使用料を取っているのかどうかということにつきましては、取っていないというところで認識しております。

【委員】

テニス場とか運動公園とかは使用料を取っているのですけれども、その辺取っていないという理由は何かあるのですかね。今後、市の土地だと思えるのですけれども、その辺はどう考えているのかなと思うのですけれども。

【副会長】

富士中学校予定地のところの空き地と言うのでしょうか、グラウンドでしょうか、そこで子どもたちが野球やサッカーしているのに、使用料を取っていないという市の説明ですよ。それに、それでいいのでしょうかということですが、市はいかがでしょうか。

【秘書課長】

私から、分かる範囲で申し訳ありませんが回答をさせていただきます。

市が使用料を取っている施設というのは、基本的には条例で定めた公の施設ということになっておりまして、今お話に出ていた旧富士中予定地ですかね、そちらは公の施設ではなくて、市の基金で管理をしている施設で、今そこを有効活用しようということで暫定的に貸し出しをして、市民の方に利用していただいているという施設になりますので、使用料等については、今現在は取っていないということになります。

【副会長】

よろしいでしょうか。皆様から他に御意見等、全般にわたって、どの順番でもいいですよ。どうぞ。

【委員】

今、副会長からも、もともとの市の計画というか目標として、6万5,000人の人口を目指していたところ、6万3,000人ぐらいのところの上昇が収まってしまっているということだったので、

ただ、先般、北総線の値下げとかも発表されたとおり、結構そうした目標を設定したこの計画当初とは、いい意味で予想外というか、予想以上の動きも先般起きてきているので、そちらのギャップの2,000人が、他の市町村から白井に定住したい、移住したいという

方々を受け入れられるだけの住宅地は、現在、「もう既に家はあるんですよ、ここに引っ越してきてくれればいいんですよ」という状態なのか、もしくは、「分譲地があるので、ここを買ってくれば住めますよ」なのか、「まずは、デベロッパーの方が手を挙げてくれないと、何とも」という感じなのか。そもそも人口増加といっても、住むところという部分が、どのような形で計画とリンクしているのかを、初歩的なことかもしれませんが、改めてお伺いできればと思います。

【副会長】

市でよろしく回答願います。

【都市計画課長】

どういったところで人口を増やしていくのでしょうかというようなところかと思えます。委員がおっしゃられましたように、北総線の値下げとかもありますので、いい機会かなというふうにも考えておりました。基本的には、既存の市街化区域、例えば桜台などは、まだ空きもあり、そういったところで人を呼び込めればと、若い世代などを呼び込めればというふうに考えております。

また、近居・同居制度とかも、こちらの1-1にございますけれども、そういった事業もやっております、空き家、中古住宅のリフォームの補助とかも、そういったところではやっております、そういったことも活用しながら、人を呼び込めればなというふうに考えているところです。

【副会長】

そうしますと、桜台では分譲しようという、空いている地域があるけれども、それを分譲する計画を立てるような様子がないということでしょうか。あるいは、分譲しても売れていないという意味なんでしょうか。桜台に関して。

【都市計画課長】

桜台につきましては、宅地造成は既に終わっております、順次販売を民間でやっておりますので、その辺りが埋まってくれば、人も増えてくるのかなというふうに考えております。

【副会長】

分かりました。1,000人、2,000人規模になるようなところでしょうか。おおよそ何人ぐらい入ってくる予定のところなんですか。

【都市計画課長】

数までは正確には把握できていないのですが、240戸ぐらいと47戸ぐらいをたしか宅地分譲しております、その内の何割が今、既に埋まっているかは把握はできていないところです。あと、あるのが西白井の駅前のマンションですとか。

先ほど説明で申し上げなかったのですが、もちろん低密度住宅地区でも住宅開発を可能としておりますので、そういったところでも人が増えてくるのかなというふうに考えてお

ります。

【副会長】

まだまだ開発予定地はあるよという理解でよろしいですか。

【委員】

今、具体的に挙げていただきましたとおり、ギャップの2,000人を受け入れられるだけのインフラとしてのキャパシティは用意されているのか、いないのかという部分を今、何百戸までは造成開発されているとおっしゃっていましたが、2,000確保されているのか、確保されていないのかという部分とかは、より市でも明確に把握された上で目標を追いかけていかれたほうがいいのではないのかなと思うのです。

例えば、2,000とはいっても、せいぜい桜台の造成地区に、あと受け入れられて800名かなとか、あと西白井のマンションであと200名で、2,000人に足りないとか、もう十分足りているんです、こことこことこことを足して、あと今お話に出ましたように、低密度住宅地区を加えれば2,000人行くんですということなのかという部分を明確にさせていただいたほうが、結局プロモーションの問題なのか、開発の問題なのかという部分の区分けも含めて、数値的に示していただけのほうが、委員としても分析しやすいのかなとは思いました。。

【副会長】

市で、何か今の件で補足説明、6万5,000人の目標に対して、なかなかそこを目指さないのか、それは目指さないのか。あるいは、そうだとすると既に6万5,000人になるような開発地域はあるんだ、だからもうやらないんだということなのか。その辺のところは、何か補足的に説明できることがありましたら付け加えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【都市計画課長】

委員がおっしゃるように、どこの場所が埋まってくれば、目標の人口を達成できるというようなところも、確かに必要な考え方かなというふうに思いました。

現状としましては、既存の市街化が埋まってきたりですとか、低密度住宅地区については、民間の開発に委ねるようなところがございますので、そういったところで需要と供給といいますか、あと、地主さんの考え方とかにも影響されてくるようなところがありますけれども、目標の人口が達成できるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

【副会長】

他の内容についても、皆さんから質問がございましたらいかがでしょうか。

【委員】

頂いた回答ですけれども、私が質問した、みどりに包まれたゆとりある環境とは具体的にどのような状態ですかというので質問させていただいて、回答いただいたのですけれど

も。森だとかそういうのは分かるのですけれども、私は今、車で通勤しているのですが、道路を走っていたりすると、今の時期とか雑草とかもすごくて、そういうのが増えてしまうと、あまり魅力にはならないのではないのかなというの思っているのですよね。なので、そういうところの整備とかも、ちゃんと定期的に考えた上でのことなのかなというのが少し気になりました。

【副会長】

感想も含めたご意見ですけれども、道路の雑草だとか、そういうところも住みやすいまちづくり、みどりがあればいいねというのを、雑草もみどりかもしれないませんが、その辺のところについて、何か市の見解とかありますでしょうか。

【企画政策課長】

今、雑草の件でお話ありましたが、管理者に、いろいろ雑草が生えているところで、公共の場所を含めて、いろいろ民間の例えば事業者さんとか個人が所有しているところもあると思います。そのような中で、本日、担当課が出席していないのですけれども、環境課という部署がございまして、そちらで適正な雑草の管理について、現在指導をしております。

【副会長】

分かりました。。

なかなかこの雑草の件は、私ども自治会でも、ここは誰の所有者なのかということで市に問い合わせたりして、県の国道事務所をお願いしたりしております。そういう意味では、適切な管理をしていただいておりますと、あるいは、またそういう方法でお願いしたいということかなと思います。その点はいかがでしょう。

【委員】

さっき宅地供給の話で、市街化調整区域の宅地供給の中で、市街化区域の縁辺部だと、民間に任せてというか、ルール上はできるところ、縁辺部であると、一定の距離のところと連たんというところだと、宅地開発も可能ということになってはいますが。そうすると、無秩序な住宅地が形成されて、そこでもともと安く住宅地が供給できるものですから、そこに集まりやすいというような傾向がよくあると思うのですが。その辺は、白井はコントロールができていているという理解でよろしいでしょうか。

【副会長】

このコントロールができていているかどうか、お答え願えればと思います。

【都市計画課長】

以前までの千葉県条例による宅地開発の許可制度ですと、市街化の縁辺部でいわゆる40戸連たんしていれば、一定の基準を満たせば開発ができていたというルールになっておるのですが、市で事務処理市という権限移譲を受け、新たに条例化をして、その条例の中で、ルールとしては地区まちづくり計画というのをつくらないと宅地開発ができないというル

ールになっております。その地区まちづくり計画を策定する中で、関係課などとも連携を図りながら計画を策定して、それにのっとった宅地開発をやっているというところで一定のコントロールができていていると考えております。

【副会長】

いかがでしょうか。

【委員】

了解です。大変、地区まちづくり計画はいい制度だと思いますので、引き続き頑張っていたいただければいいかなというふうに思います。もう一つ、よろしいでしょうか。

【副会長】

どうぞ、お願いいたします。

【委員】

今回の1次評価のところ、最終的におおむね順調というところなのですが、その定性評価のところを見ると、ソフト面とハード面と経済的な支援云々というふうに書かれているのですが。順調でもいいかなというふうには見えるのですが、それでおおむね順調というちょっとランクを下げているというのは、例えばその上の定量評価のところ、基準値、特に白井に住みやすく感じる若者の割合みたいところが、基準値にちょっと満たない、その辺が影響してのおおむね順調という自己評価なのではないでしょうか。

【副会長】

いかがでしょうか。

【都市計画課長】

委員がおっしゃられたように、白井市に住みやすさを感じる若い世代の割合というのは、確かに66.1%から57%というふうになっているようなところがございます。こちらにつきましては、基準値は、市民2,500人を対象とした住民意識調査による結果に基づいた指標となっております。令和3年度の実績値は、毎年実施しております市政モニターを対象とした小規模なアンケートで行っておりますので、サンプル数が違うといったようなところもございます。ただ、結果としては、下がっているようなところもございますので、おおむね順調というふうな形で考えたところです。

【委員】

例えば、アンケートの調査方法で違ってくるといってもあると思うのですが、今回の我々の評価指標というのは、共同の観点の指標が多いものですから、そこから言うと、若い人たちがどういう点に反応しやすいか、調査項目の設計の段階からいろいろな若い住民、先ほどのまちづくり会議のところから意見を吸い上げるとか、そういうところから、事前の、秘書課がいろいろ活躍されているようですけれども、もっともっと市民感覚を入れた評価項目、若い人たちがこういう評価をしやすい観点、そんなものを発見するなんていう、その辺の試みはされているのでしょうか。

【副会長】

この辺のところ、何か参考になるような説明等がございましたら。あるいは、これは持ち越して、また参考の意見を用意しておいていただくか、いかがでしょうか。

【委員】

はい。よろしく申し上げます。

【副会長】

画面で御意見だとか、あるいは、まだ発言されてない方はいかがでしょうか。

【委員】

私、何回かこの会議に出席できなかったのですが。前回の資料だけ読ませていただきますと、前回やっていた62ページにも書いてありましたけれども、それから比べてみると、随分行政も検討されていらっしゃるのだなと思いました。

一つは、委員さんも質問されていますけれども、災害等に強いことを促進、検討しているということだったので、これに対してお聞きしたいのは、災害時における円滑な避難誘導の件です。その利便性の向上につながるように、道路ネットワークの誘導方針を策定していますということなのだと思いますけれども、これは、障がいとか高齢者というところに重きを置いて検討もなさっているのでしょうか。その辺お聞きしたいなと思ひまして。もちろん市と社協は提携を結んでいますので、災害が起きたときのことの対応は心得ていますけれども、その誘導まで、詳しいところをもうちょっと聞かせていただきたいと思ひまして。

【都市計画課長】

今、取り組んでいる道路ネットワークにつきましては、ハード面の部分になります。なるべく行き止まり道路をなくすとか、道路をループ状にして緊急車両が出たり入ったりしやすいような形を作ろうというようになっておりまして。障がい者等の避難誘導になりますと、ソフト面の部分の話にもなってくると思いますので、今後そういったことも検討しながらやっていく必要があるのかなというふうに今思ったところです。

【委員】

今、障がい者のところで言ってらっしゃいましたが、そのときの皆さんで計画されている中に、申し訳ないのですが、障がい者の部分のところは、多分社協のほうノウハウを持っているのが結構多いと思うのです。だから、企画されるときには、ぜひ社協にも声をかけていただければと思います。よろしく申し上げます。

【都市計画課長】

御意見。今後参考にさせていただいて、御意見等を伺えればと思います。

【副会長】

自分の質問もお願いしたいです。例えば今の関連では、10番に公園施設寿命化計画に基づいて、大松・池の上・桜台地区で遊具更新工事を進めました。これも私は大松の自治会

長をやっておりますので、連絡を取ったのです。そうしたら、その三つの地域でやっているの、その三つが終わらないと工事が終了にならないのだというので、何か月もと言うと変なのですけれども、子どもたちが遊びにきて、いつできるんだろうかという顔をしていて。三つとも終わらないと使えないということ。あるいは、その長寿命化、せめて地域の自治会さんに声掛けぐらいあってもいいのかなど。ある日突然、見たら登り棒がなくなっていたとか、そういうようなことなので。もうちょっと地域のそういう関連したところにも、お声かけ願えればと思うのですけれども。そういう仕組みというのは、こういうものを進める上で難しいものなのではないでしょうか。そういう意味では市民参加でやっているの、今度、公園、来年度ここはこうなるよとか、そういうことを、自治会がありますので、やっていただければいいのではないかなと思いましたので、お答え願えればと思います。

【都市計画課長】

今回の事業につきましては、長寿命化計画にのっとって進めているような事業ではあるのですが、委員がおっしゃられましたように、地元との調整も円滑にやったほうがいいのではないかなという御意見かと思っておりますので、今後参考にさせていただければと思います。

【副会長】

ぜひ、参考にさせていただいて。今度は、こういうのを来年度はやるよぐらいでも結構です、そうですかということ。あるいはまた、せっかく滑り台が新しくなったのですけれども、もうちょっとこういうのはないんですかとか。そうすると、要望が出てきて大変だよと、知らせると、かえって要望が出てきて大変だよというのか。それはだけど、地域を大事に、地域とコミュニケーションを図っていくというのは大事なことはないのかなと思うので、今後ともお願いしたいなと思いました。

あと、画面で参加しておられる方のございましたら。

【会長】

私から伺いたいのは、これは、この審議会でもずっと議論を重ねてきているところではありますけれども。今回、私、事前質問でナンバー2のところと16のところ伺っております。この若い世代の定住と住環境ということを結びつけて捉えていくということをどれぐらい戦略的に考えているのかということに改めて現段階でお尋ねしたいと思います。

というのは、若い世代は、まさに今、自治体間でぶんどり合戦のような体をなしているわけで、近隣でも、流山とかあるいは八千代とか、そういったところは若い世代がどんどん集まっている。これは宅地開発ベースに、どんどん若い世代が、放っておいても移り住んできている。そこにさらに、いろいろなソフト面が加わって、若い世代に魅力ある、子育てに魅力あるまちづくりということで、そうした動きをどんどん促進しているという。そこに民間企業との連携も踏まえた戦略的な動きというのはされていて、それはそれで、一つの在り方だとは思っております。

白井として、若い世代に魅力ある住環境を提供していく、そういう支援を行っていくというときに、どこにその重きがあるのかという辺り。先ほどの質問にもありましたけれども、開発ベースの話なのか、既存の住宅ベースなのか、あるいは、たまたま別なものなのか、その辺によって、どういう若者たちをターゲットにして、こういった施策事業というものを行っていくのかというのは、かなり変わってくると思うのです。ですから、ターゲットをどういうふうに考えているのか。

つまり、例えば大学生に対して就学支援をしていくというのは、まさに二十歳前後の学生たちを一つのターゲットにしている。でも、例えばUターンなんていうことを考えていけば、例えば30前後ぐらいを想定しているとするならば、同じ若者でも想定しているものも違うし。それから、若者が何をもちて魅力を感じるのか。二十歳代の若者たちが感じる魅力というのはどういうものなのか、あるいは、Uターン組が考えるような魅力というのはどういうものか、この辺もしっかり描き分けながら戦略というものを立てていかないと、非常に曖昧としてしまうところがあるのではないかとすることは、以前からずっと気になっている点です。

これも以前に出たことなのですけども、例えばみどり豊かな住環境とか、あるいは働く場と住む場の要するに職住接近であるとか、あるいは、同居・近居に対する支援というものは、限られた数しか見ていないのではないかとこの部分もあって。それを売りにしていくことが、今の若者たちの満足度を高めていくことにつながるのかどうかというと、一部はそれにつながると思いますけれども、大きな広がりになっていくかどうかというのは、また別の見方もあり得るところかなと思いますので。いずれにしても、若い世代をどういうふうなターゲットとして捉えて、今の取組というものを位置付けているのかという辺りです。その辺、やや総論的な話ではありますが、伺えればと思います。

【副会長】

この辺のところは、どなたか。都市計画でしょうか。

【企画政策課長】

総論的な話になって難しいところもあると思うのですけれども、現段階におきましては、会長がおっしゃられた若い世代と言いましても、いろいろな年代があるわけなんですけれども。例えば、幼児、小さい子どもとか、あるいは大学生ぐらいの二十歳前後の子、あるいはUターン組含めて、今、局所的な事業での対応となってしまうのですけれども、近居推進事業とか、若い世代定住促進支援金事業、これらを進めていって、進めていく中で、限定的な年代の取組にはなってしまうかもしれないのですけれども、その他の呼び込みにつきましても、これらの事業と含めて、その方向性というか、取り組める事業がありましたら、今後の検討課題として取り組んでまいりたいと思います。

現段階においては、こちらに施策評価シートに記載されている事業の取組でしかないのですけれども、この第5次総合計画、後期基本計画の中に新たにに取り組める事業がありまし

たら、取り組みたいと思いますし。また、次期の第6次総合計画に向けても検討してまいりたいと思います。

【会長】

一言だけコメントしたいのですけれども、おっしゃるとおりで分かるのですけれども、今後、中長期的に考えていったときに、例えば若者たちの住みやすい環境ということを考えていくときには、住環境だけを切り取っていても、多分駄目だと思うんですよね。だから、そこには例えば子育て環境、教育環境、それから働くという環境、それから介護とか、親の面倒をどう見ていくのかといろいろなことがあって、それらが若者一人一人にとってみて、あるいは家族にとってみて、どんなふうはこの白井の中でイメージできるのかという、そういうことを少し結び付けながら考えていくことができるような場や機会とか、あるいはそういう情報発信というのがどれぐらいできているか。それから、都市計画系、企画系、それから市民活動系、多分いろいろなものがその辺を共有して情報発信をしていかないと、白井ならではの魅力発信ということになっていかないと、その結び付きということがなかなか出てこないと思うのです。

これも以前から、縦割りということで、なかなか横のつながりが出てきていないということは指摘されてきているところですが、その辺の単なる横のつながりだけではなくて、移住とか定住を考えている若者たちのイメージが膨らむような横のつながりとか、情報発信、あるいはそれを検討できるような場や機会というのは、どんなふうこれから考えられていくのかという、その辺が非常に大きな課題になってくるかなというふうに思いますので、指摘だけさせておいていただきたいと思います。

【副会長】

御指摘、そういう意味では、若者たちは、若者と言っても狙い目はいろいろあるでしょうけれども。何かコメントがありましたら、よろしいでしょうか。

【企画政策課長】

今、会長がおっしゃられたことにつきましては、今後の施策を進める上で参考とさせていただきます。

【副会長】

では、もう少し時間がありますので。お願いいたします。

【委員】

先ほどの会長の御指摘なのですけれども、私、都市計画審議会もやっています、都市マスの中では、こういう若い世代をどういうふうに取り組んで定住を促進するかというプロジェクトに対して、都市づくりの基本的な視点を今、私、都市マスを見ながらやっていますが、五つほどの観点で挙げていて、それを都市マスと都市づくりとして五つ挙げていて、それを都市マスがどういうふうにとり込んでいくかというところをやっているのです。

先ほどのお答えですと、一個一個の事業に直結するみたいな話になってしまうのですが、都市マスの議論の中でしっかり概念整理をある程度されていると思うので、その部分をしっかり踏まえた上で、個別の事業の検討・・・。

【副会長】

ちょっと音声途切れております。入りました。

【委員】

都市マスの話の中で、土地づくりの基本的な視点というのを定めてあって、それを都市マスに落とし込んでいるのですが、その辺を踏まえた上で個別事業の御説明をいただいたほうが、全体像をつかめて分かりやすいなと思いました。

あとは、市民アンケートであるとか、これまでの地区単位のまちづくり会議みたいなどころを通して分かっていることは既にあると思うので、そういうところを生かしていければ、全く手が付いていないというところではなくて、それを見える化していけばいいのかなというふうに思います。ある資源を大事に使われたらいかがかなという意見です。

【副会長】

若者が入ってくるためにはどうしたらいいかということで、いろいろ御意見頂きました。

私どもも今、自治会をやっている中で、生産緑地だったところが雑木林みたいになっていたところだったのです。そこが切り払われて、民間の業者さんが28戸の建て売りを建てられました。大変、私の目から見ても、美しいなという感じなのです。自治会に入っていたらこうと思って説明会を開いたら、本当に若い方たちです。

4日前の日曜日においでいただいた人は3組だったんですけれども、来月生まれますという方と、生まれて2か月のお子さんがある方と、またお子さんもない、本当にこれからこの白井をふるさとにしようということで移ってこられる人たちなのです。我々もそんな頃に、みんなここに引っ越してきたわけですが、ジジババばかりの自治会にそういう人たちが来るというので、大変歓迎しております。だから、そういう意味では基盤も整っているところですので、まだまだそういう需要あるのではないかなと思います。だから、市もいろいろ取り組んでおられるんでしょうけれども、我々も計画を確認しながら進めていこうと思っております。

ちょっと自分の意見が長くなりましたけれども、皆さん、最後よろしいでしょうか。ここで2時10分ということで、ここで終わらせていただきます。

○戦略3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり

【副会長】

先ほどと同じように、事前質問事項一覧というのがお手元にあります。戦略3-1、都市拠点がにぎわうまちづくりということで、このテーマで既に質問を頂き、また回答と

しては書面で出ております。その上で質問された方、あるいは質問に関して、これを読んで、再度市に確認したいということがあると思いますので、進めていきたいと思います。

まずは手を挙げていただいて。若い番号からでも、あるいはどこからでも結構ですが、お願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

11番について、具体的にはこのグランドデザインを市民に対して示せるのはいつ頃になるんでしょうかという質問への答えがあるのですけれども、いかがでしょうか。

【委員】

私の11番と6番の回答を読ませていただきまして、土地の利用が進み、開発が進み、企業の立地も税収とかにもつながりますので、非常に前向きなことだとは思いますが、にぎわいづくりとデータセンター立地は、駅のすぐ近くに何にも使われていない土地があるよりは、企業が立地しているほうが市街地の顔としてはいいとは思いますが、にぎわいと整合性というのは、どのように市では捉えていらっしゃるのかなということをお聞かせいただけます。

【副会長】

あと、追加的には、就業人口をどの程度に想定されているかも、一緒に伺えればと思います。よろしくお願いいたします。

【都市計画課長】

今回、中心都市拠点の都市拠点が賑わうまちづくりということで、市役所、白井駅周辺や西白井周辺などでの地域特性に合わせたにぎわいづくりということで取り組んでいるところです。

中心都市拠点の位置付けとしましては、事前の参考資料の1枚目に将来都市構造図というのがあるかと思うのですが、このピンク色で囲われた部分が中心都市拠点として位置付けられた部分になります。こちらにつきましては、市役所ですとか、周りにある病院ですとか、そういったところも含まれております。あと、最近できましたベルク等の商業施設もこの中に含まれておりまして、にぎわいという意味では、そういった部分で進めているようなところもございまして。データセンターにつきましては、確かに雇用はあまりないのかなという部分もあるのですが、そういった施設も誘致も進めているようなところになっております。

【副会長】

でも、話題として、大きなデータセンターができるんだよと、市民の間では話題になっているのかなと思いましたが、どのぐらいの就業人口がそこで、やはり働く場ができていくというのも、お店ができるのと同時に大事ではないかなと思うのですが。データセンターの就業人口などは、市としては把握していないのですか。私からの質問ですが。

【産業振興課長】

データセンターは、常駐の就業人口というのはつかめません。多分個々の建物で違うと

思います。

ただ、SEが非常に頻繁に通ってくるということで。隣の市の話をして申し訳ないのですけれども、隣の市は、駅前に三つぐらいホテルがあるかと思うのですけれども、今インバウンドの需要がないのでガラガラなのかと思いきや、データセンターに来るSEでほぼ満杯状態ですので、市内雇用を生むかどうかというのは、また別の施策をかませないと難しいかと思うのですけれども、北総線の乗降客数に影響は出るのではないかと、そういうふうには考えております。

【副会長】

分かりました。これからだんだん詳しく分かってくる部分もあるのだと思いますが。データセンターができて、工場と違って人がたくさん来るということではないということは理解しております。また就業場所があると、そういうことで帰りには一杯飲んで帰る人たちがいれば、お店もいいのではないかというふうに思いますので。分かりました。

他に皆様から関連でもいいですし、また、他のテーマについての御質問でもと思います。

【委員】

今のデータセンターのところで追加で質問ですけれども。同じ資料の中の左の枠の中に、エリアマネジメントの話が出てきていますけれども、データセンター周辺エリアとして、商業エリアとかいろいろな住民が絡んでくると思いますけれども、そのエリマネの導入は、データセンターと一緒に考えられているというようなこともあるのでしょうか。

【副会長】

エリアとしてエリアマネジメントはどうなのかということで、よろしくお願いします。

【産業振興課長】

データセンターを含めたエリアマネジメントというのはあまり聞いたことがないので、今のところは考えていないのですけれども。例えば中心都市拠点に含まれるエリアとしては、駅前があります。駅前でエリアマネジメントをやっている市というのは多々ありますので、その辺は、産業振興課で駅周辺活性化事業というのを西白井と白井駅やっていく予定ですので、当然その先には、エリアマネジメントも検討をしているところです。具体的にどういうふうにやっていくのかというのは、これからの話になりますので。回答としては、そんなところかなと思います。

【委員】

資料では、工業専用地域の振興の中にエリアマネジメント、商業系や住宅系のエリアマネジメントはよく聞きますが、工業系のエリアマネジメントはあまり聞きませんので、そこは新しい試みがあるとしたら、非常にユニークなものになるかなと思います。感想です。

【産業振興課長】

工業団地は、もう考えています。というのは、工業団地は既にまちづくり条例上の地区

まちづくり協議会が出来上がっていますので、これからエリアマネジメントまで発展させるためには土壌ができていのかと思いますので。その辺は、工業団地協議会と話し合いながら進めていければと考えております。

【委員】

データセンターを誘致するときにも、まちづくり協議会みたいなものができていたのではないですか。もしできていれば、それを活用したデータセンター一体型のエリマネも可能性あるのではないのでしょうか。

【副会長】

データセンターのところでも、まちづくり協議会のようなものはできていたのかどうか。そうだとすれば、どういうふうになっていくのかという点で説明いただければ。

【産業振興課長】

データセンター、これから具体的にになっているのは、市役所南側の生産緑地、そちらに建つというか、そろそろ始まる頃だと思えるのですけれども。そこは地権者の地区まちづくり協議会ができていました。面積的にあまり広くないので、そこでエリマネというのは厳しいかなと思うのですけれども。それ以外のところでも、生産緑地は市街化区域ですので、それ以外の市街化調整区域のところでも、実は企業誘致を絡めたまちづくり協議会は既に何個か立ち上がっています。市街化調整区域になりますので、当然そこは地域に貢献する施設、そういうものも含めて検討して、地権者同士でまず話し合っただけで検討しているのです。ですので、そのデータセンターのみではないので、その辺に関しては、エリアマネジメントの導入も検討できるのではないかと考えております。

【委員】

了解です。

【副会長】

分かりました。では、この白井駅周辺のところでは、幾つかの既に地権者を中心にまちづくり協議会があって、幾つかのものが進んでいるということが確認されました。

他には皆様いかがでしょう。

【委員】

駅前の話とか出ていたのであれなんですけれども。私も質問させていただいて、結構この事前質問でも多かったのですが、トライアルサウンディングで、キッチンカーの出店のことでもいろいろあったと思うのですけれども。

結構、今、コロナ禍というのも関係しているというのは聞いたのですが、キッチンカーというのが今すごく来ているという話を聞いていて、このキッチンカーの出店なんですけれども、これをもっと増やして出店できる場所、開催できる場所というのを増やしていけばいいのかなと思ったのですが。ただ、台数で最大で7台、7店の出店ということだったので、これをもっと増やして出店することは可能なのですか。そうすれば、

まちおこしのイベントとして、キッチンカーイベントというのもできるのではないのかなと考えたのですが、どうでしょうか。

【産業振興課長】

今回、実施した駅前プラス西白井の給食センター跡地のトライアルサウンディングは、あくまでもイベントではなくて、社会実験という形でやっております。駅前に必要な機能は何かというのを調査するために、今回はトライアルサウンディングという形で、予算をかけない形で実施しました。事業者1社が手を挙げてくれたので、そこでキッチンカーを使った社会実験、そういう形でやらせていただいたところです。今年度予算を盛りまして、他のところにも、例えば工業団地とかそちらにも、キッチンカーによる社会実験をやっていく予定です。

今回3月にやった駅前の分につきましては、ある程度集客力もありましたし、出店した事業者も、結構売り上げはあったという結果は聞いております。

ただ、これ7日間だけしかやっておりませんので、これが継続的にやっていくとなると、果たして事業の採算性がどうなのか、その辺はまた、何回かやって調査して、実際に採算性が合うということでしたら、駅前の必要な機能ということで見込めますので。駅周辺の再編を行う際は、そういうことを見込んで進めていく、そういう形のあくまでもイベントではなくて、社会実験という形で今回はやらせていただきました。

【副会長】

ということですがけれども、よろしいでしょうか。

西白井の給食センターの跡地は、具体的な件で質問が出ておりますが。回答のところが出ていて、その後、それについてはいかがでしょうか。

【委員】

御回答いただきまして。これからという話だと思うのですがけれども、ちょうど駅から近い利便性のいいところなので、有効活用していただければと思っています。

【副会長】

ここの回答の中で行政経営戦略会議ですか。これは、ここで今後も何かこの西白井駅のところを検討していく会議なのでしょうか。その辺のところを、私からも説明をしていただければと思います。

【産業振興課長】

これは、あくまでも行政経営戦略会議は市の最高決定機関ですので、何かしら方針を決定する際には、かけますけれども。駅前の実際の推進役、そういうものは、駅周辺地域のプロジェクトチーム、庁内横断的なプロジェクトチームを立ち上げておりますので。実際の進行役、推進役については、そのプロジェクトチームと北総鉄道と協定を結んでいますので、そちらとも意見交換しながら、それと一番大事な駅前の商店街の地権者の方々がいますので、そういう方たちと話し合いながら進めていくのですけれども。

なぜ、給食センター跡地を入れたかといいますと、給食センター跡地も西白井の駅に近いので、駅周辺活性化を進めていく上で非常に重要な公共空地と考えております。給食センター跡地と、それと西白井複合センターの敷地、それと駐輪場の敷地ですか、非常にある程度まとまった土地の敷地がありますので、駅前を再編するには、非常に白井駅よりもやりやすいということで、公共空地、公共施設の空き地を含めて、駅周辺地域活性化の再編を進めていってよろしいかということで、行政経営戦略会議で諮らせていただいて方針を決定したという流れになります。

【副会長】

そこを決定したということなので、そこを今の課長の説明のような方たちをプロジェクトに巻き込んで、駅前開発をしていくということが方向性としては確認された。大体おおよその年数的なめどみたいなのは、あるのでしょうか。

【産業振興課長】

これは、あくまでも計画の話、実施計画事業の話になりますけれども、周辺のビジョン、白井駅も含めてですけれども、ビジョンを令和7年度までに決定して、そのビジョンに基づいた施策については、次期の計画という形の一応予定にはなっています。当然、早く進めば、前倒しでやっていければと考えております。

【副会長】

分かりました。給食センターの跡が更地になって何年ぐらい経つのでしょうか。西白井周辺の住民には、大分経っているなという感じで、どうなるのだろうなと思っている人たちも多いかと思います。私もその中の一人なのですが。令和7年というとまだ3年あるわけですが、そこまでにビジョンが決まって、それも早まるかもしれないという回答を頂きました。

では、他の質問だとかいかがでしょうか。

【会長】

大体、議論として出ているようなことを私も聞こうとは思っていたのですけれども。

そもそも論的に一つ伺いたいのは、エリアマネジメントという都市計画、地区計画絡みのまちづくり協議会と、それから市民参加でやっている小学校区単位のまちづくり協議会という名称は、かなり同じものが使われていて、それなりに狙いは分かるのですけれども、多分混乱される方もそれなりにいらっしゃると思います。この二つのまちづくり協議会というのがどういう意味を持っていて、小学校区単位のまちづくり協議会というのは立ち上がっているところがまだ限られてはいますけれども、その辺のあり方論について、担当の方はどのようにお考えになっているか、お聞かせください。

【副会長】

ここにいる委員も含めて私もそうなのですが、地区まちづくり協議会と小学校区まちづくり協議会があるのです。小学校区まちづくり協議会は、私ども大山口小学校区含め、既

に3か所で立ち上がっておるわけです。あと、地区まちづくり協議会というものも工業団地もやりましたし、その辺のところも含めて説明いただければと思いますが、よろしくお願ひします。

【都市計画課長】

都市計画課で、地区まちづくり条例に基づくまちづくり協議会の説明をまずさせていただきます。白井市に白井市まちづくり条例というのがございまして、土地の所有者等がその土地をどういうルールの下、開発を行っていくかということで話し合っただけでルールづくりをつくれるような、主にハード的な部分の公園をどうするとか、道路をどうするとか、そういったことを決めていくようなまちづくり協議会が、白井市まちづくり条例に基づく地区まちづくり協議会となっております。

【企画政策課長】

小学校区単位のまちづくり協議会につきましては、お手元の資料になるのですが、23ページを御覧いただければと思います。

カラーの資料で5月にお配りした、当時の資料2-2、施策評価シート参考資料です。こちらで、小学校区を基本的な単位としたまちづくり協議会ということで、先ほどの地区まちづくり協議会は条例に基づくハード的なものの取り決めになるのですけれども、こちらは小学校区単位で九つの小学校区を単位とした協議会になります。

イメージ図が右にあるのですけれども、右側の円で、自治会ですとかPTA、市民、地区社会福祉協議会、これらの団体等で構成をされております。

【会長】

それぞれの位置付けと狙いは分かるのですけれども、今後、両方がいろいろな可能性を持っていく中で、どういう関係性を持っていくという制度設計になっているのかどうかということと。

エリアマネジメント、地権者をはじめとした関係者が、そのエリアをどういうふうにつまみ食いして、活性化なりなんなりということを考えていくのかという部分と、そこに一般の地域住民であるとか、あるいは市外の方々だとかというものが、また、この中心市街地にどんな期待を寄せていくのか、そういうふうなやり取りというものを今後さらに本格的に考えていったときに、どういう関係を持っていくことが望ましいのかという、その辺り、参考までに伺えればと思うのですけれども、いかがでしょうか。

【委員】

私がお答えする話かどうか分かりませんが、非常に曖昧に分類できない部分もあるのですが、逆に、全部が全部というわけではないのですが、基本、企業を中心にどうやって地域資源というか、民間の個々の財産も含めてですが、維持管理をできるかというような自立的な仕組みで、行政や住民というような関わりも当然入るのです。そこに商店なりビジネスなり、先ほどの話ですと工業団地などが入り、物・人・金を出し合っただけで地域の

中で資産管理をしていく、そういう仕組みということ。乱暴に言うとそういう仕組みなのだと思えます。

そこに対して行政も絡む形の、それが小学校区単位であれ、もう少し狭い単位であれ、緩やかに広くつながっていくというのと、目的がより鮮明に絞り込まれるという意味で、エリマネを位置付けられるのかなと思えます。

ただ、一緒に関わる小学校区単位の緩やかな関係づくりの中に、エリマネ組織が色濃く存在していくというのは全然あり得る話だし、そういったモデルをにぎわいづくりの中に白井市は展開していけばいいのかなという見方を私自身はしています。

【副会長】

さっき工業系でもエリアマネジメントという言葉が出てきたわけですがけれども、この辺のところを我々委員としても、どう捉えていいのか。産業振興課として、この言葉を使って説明し、計画の中にも盛り込んでいくということになっていくのでしょうか、エリアマネジメントという言葉は。お答えいただければと思います。

【産業振興課長】

エリアマネジメントといっても、そのエリアを全て自分たちでやる、それが理想ですがけれども、というわけではなくて、ここからこの部分はやっていきたいと思いますというものであっても、それがどんどん発展していけば理想ですがけれども、そういうものでもいいと思っています。

あと、メンバーです。工業団地は工業団地協議会がありますので、工業団地協議会がメインでやっていただければ非常にいいのかなと。その辺をこれから話し合っていきますけれども。駅前などは、駅再編で事業者が入ってきますので、事業者と地権者、これはあくまでも個人的な意見ですが。再編する事業者と地権者プラスアルファというような形でエリアマネジメント、こちらは、もう少しレベルの上があったある程度8割9割、自分たちで全部エリアをマネジメントできる、そういうのが理想かなとは思うのです。これもあくまでも持論です。

先ほど小学校区単位とどういうふうにリンクしていくんだという質問がありましたが、これも個人的な持論ですがけれども、小学校区単位の一部単位でエリアマネジメントではないですがけれども、そういう話合いが始まって、それがどんどん広がって小学校区単位まで広がる。でも、いきなり小学校単位から始めるのではなくても別にいいのかなという考えはあります。

先ほど、まちづくり条例はハード的な面だという話あったのですがけれども、ハード的な面だけじゃなくて、あくまでもその地域のルールを決めていきたいと思いますという話合いをその区域ですていくというのが、まちづくり条例の趣旨になります。ですので、今出来上がっているのは、ほぼ企業誘致絡みの関係なので、企業誘致のためのまちづくり協議会かと思われてしまうかもしれないのですがけれども、その以前は、企業誘致がまだ活発になる以

前は、違う目的でまちづくり協議会はいろいろつくられていました。南山3丁目などは、一低層の戸建住宅の区域ですけれども、広い敷地だったので、そこを戸建を壊して集合住宅を建てるという計画があったので、それで地区まちづくり協議会ができて、いろいろ話し合いました。

ただ、地区計画みたいな厳しい計画をつくるには、100%同意が必要になってきてしまいますので、それは厳しいのですけれども。もっと緩やかな計画を地区まちづくり計画という形でその区域はつくっていますので。

地域で話し合っていくということの目的を達成させるためには、まちづくり条例上の地区まちづくり協議会、これは非常に有効な方法だと考えております。それが、小学校区まで広がったものが小学校区単位のまちづくり協議会かなと、これも個人的な考えですけれども思っております。

【副会長】

地区まちづくり協議会と、この小学校区まちづくり協議会と、ちょっと違うもののように私自身は受けとめています。

【市民環境経済部長】

私からは、小学校区単位のまちづくり協議会、そちらの話をしたと思います。もともとこのまちづくり協議会に関しましては、地域住民の方々に、自らがその地域の課題について解決をしていこうと。その解決をするに当たって、その地域の方々が主体になって、自らの地域をどのように良くしていこうかというようなことをそれぞれの方々に話し合いをしながら解決をしていくというような、そういう方法でございました。

今現在は、各小学校区の中に、いろいろな分野の市民の主体の団体が出来上がっているのですけれども、こういう団体さんの高齢化といったようなことが今、見えてまいりましたので、その辺がありますから、少し合理化をするだとか、もっとそれで担い手を増やすことによって地域の負担を軽くしようとか、そんなようなことが一番の主眼に置かれながら、これまで各小学校区でこういう取組についての検討をしてきているということでございます。

今現在は三つできまして、これから四つ目を検討していこうというような段階でございます。この地区まちづくり協議会の趣旨とは、またこの小学校区については、別のものということで考えておりますが、ただ、お互いにそれぞれの持ち分の内容について他の協議会の方々から御意見を聞いて、その中で何か生かすことができるというようなことは当然あるのだと思っております。

【委員】

先ほどの施策のときにも聞いたのですが、1次評価の進捗状況のところでおおむね順調というところに丸が付いているのですが、これは、上の定量指標を見ると、工業団地の立地企業数が基準値から減ってしまったからというのが主な理由なのでしょうか。

【副会長】

いかがでしょうか。

【都市計画課長】

委員がおっしゃられるように、指標として下がっている部分もございましたので、おおむね順調というような評価をさせていただいたところになっております。

【委員】

そのときに重要なのは、何で減ったかという自己分析がある程度できているところが重要だと思うのですが、そこはいかがなのでしょう。

その辺は、我々のところの評価項目にもあるものですから、そこがあるかないかは結構重要で。そもそもどうやって評価をしているかというのが私の質問の中にあると思うのですが、有効性とか効率性ということも含めて、全ての調査やっている、評価をやっているということの御回答なものですから。

そうすると、例えばこういう統計手法が減ったとしても、自己分析がある程度できていて、その方針が分かっているならば、効率性を見てもいいのではないかと。あと、定量評価でいろいろお話を伺っていると、トライアルサウンディングであるとか、いろいろな攻めの社会実験を含めて、攻めのチャレンジを大変、私、白井は素晴らしくやっているなど思っていて。自己分析ができて、いろいろな民の力を入れた社会実験なども導入をしていると、ここは順調でいいのではないかと思うのですけれども。そもそもの1個の項目が高い低いというようなことだけ、そういう現象だけをもって順調、おおむね順調ということではないのではないかなという。そもそもの評価の方法はどうされているのかなという。これまでに指標が1個でもあると駄目というのではなくて、やはり指標の分析を内部でどうやってできていて、どういう解決の方向があるから、これはクリアしている。でも、予定にはないトライアルサウンディングや、それから社会実験が実現できて、これは予定以上にやっている。だから、全体で言うと順調でいいのではないかと。そういう議論はないのでしょうか。

【産業振興課長】

工業団地立地企業数のところからお答えさせていただくと、これはあくまでも協議会の加盟件数です。実際に工業団地に何件ぐらいあるかというのは、把握できていません。工業団地協議会の加盟数ですので、当然減ったということは、廃業もしくは協議会から抜けた事業者がいるという理由だと思います。

それと、評価シートがおおむね順調となった中には、指標だけではなくて、工業団地アクセス道路の整備事業も含まれています。これは指標には載っていませんけれども、一応どこまでの進捗状況かというのは取組内容に書いてありますので、その辺も含めてですと、順調まではいかない評価になってしまうのかなという思いがあります。

【都市計画課長】

今、産業振興課長も申し上げたところを踏まえて評価したところですが、委員がおっしゃられるように、施策評価の方法等につきましては、今までやっていない事業とかもやったりしているのだからというようなお話もいただきましたので、今後検討していきたいと考えております。

【委員】

一番申し上げたいところは、アクセス道路も暫定形で解決しようというような立派な方向が出てきているわけですし、指標そのもの、加入率の状況かもしれないということであれば、それそのもので全体の自己評価が、引き気味に言って、おおむねとか、劣っているとかということではなくて、プラス側の評価も積極的に入れられるような文化をつくっていくというのが、いいのかなというふうに思いました。

【副会長】

そういう意味では、プラスの評価をはっきり指し示していくと。

ただ、工業団地に関わる者としては、この回答等を見ましたら、まだまだ先が遠いのだなということはこの回答を見て感じております。大変残念だという言葉を使っていいのかなどうか、市も一生懸命、今取り組んでいただいているのですが、なかなか回答いただいている部分では、いつ開通というのは、まだ見えないというところであるのかなというふうに思います。

御発言の少なかった方で、あるいは画面でおられたらコメントとか何かございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

前の1-1なども含めてなのですけれども、施策実施していくにある程度目標を立てながら、その検証というか、皆さん市役所の方ですと、PDCAとかいろいろな言い方があると思うのですけれども、やっぱり目標がないと、遅れてもそれは仕方がないと思うのですよね。ただその、ある程度数値もしくは決めた目標をちゃんとつくって、先ほどの会長や委員が言われたように、遅れた理由とか、また詳しく記録して行って、次にどうしたら、それが解決できるかということを検証していかないと、なかなか白井市は財政も結構逼迫しているらしいので、非常に進めることは難しいとは思っているのですけれども。先ほど低密度住宅で少しお答えいただいたような、関係することを各課で共有しながら、少しずつ情報交換しながら進めていくと、またそれを市民に情報公開していけば、市民も納得しながら、ある程度進んでいけるのかなと思うのですよね。

ですから、市役所の方、市としても、目標設定は結構厳しい、いろいろな事業があると思うのです。だけど、我々の見る目からすると、いろいろなここに目標値とか目標というのがあるので、そこはちゃんとできる、できないは別にして、つくって、一つずつ進めていけたら、お互いに行政と市民が納得していくのかと思うので。その辺は、これからも引き続き進めていってもらえたらありがたいと思います。

【副会長】

いかがでしょう。

【委員】

ここの3-1の部分とはちょっと離れてしまうのかもしれないのですが、白井に入ってきた世代が、白井のまちや行政の取組やメッセージについて、どう受け止めているか、どうやったら受け止めやすくなるかという点で提言させていただければと思うのですけれども。

白井市は、例えば中木戸地区であったり、富ヶ谷地区、富ヶ沢地区、様々な地区の呼び名があると思うのですが、これは住所ではないので、市外から来た方々には、富ヶ谷地区は住所に出てこない、グーグルマップに入れても出てこない、どこという話になると思うので。そもそもそこで、白井に長くいる人にとっては常識だけれども、外から来た人には、全く調べる手立てもまるでなかったりという部分があるので、まずそういうところから、市民や入ってくる方々とのつながり、接点という部分で、行政は一段、目線をそういうところに合わせていただきたいなというふうなこともすごく感じます。

あと、先ほど副会長がおっしゃっていただいたように、何か地区で動きがあったときにメッセージが下りてこない。例えば、PTAから、ここの信号や横断歩道をこう改善してほしいということは、長年の要望が通って横断歩道の移設をしていただいたというのが先日あったのですが、横断歩道の場所を変えたということが、小学校にすらメッセージが来ていなくて。いきなり児童たちが朝行ってみたら、横断歩道があるところになくて、あっちに移っているという。学校にすら連絡がなかったということが、結構うちの学区でも騒動になったりしたので、そういうメッセージを受け止めるところが、小学校なのか、自治会なのか。自治会も、ある地区とない地区があるという問題とかは、市民の側のソフト面で結構課題かなとも思っていますので、そういう課題をぜひ行政と市民側とで共有できればなというふうにも感じます。

特に、今日はワークショップがないので、皆さんの委員の方々の意見を伺っていても、我が意を得たりという意見もたくさんありましたので、そういった意見交換とかをぜひできればという部分の時間が今日はないということだったので、本質とは逸れますけれども、共有いただければなと思って申し上げました。

【企画政策課長】

今、委員さんがおっしゃられたことにつきましては、この総合計画の進め方、3本柱ありまして、まず情報共有、市内外の情報共有を行うことと、あと参加協働というものがございます。

市民参加条例というものがありまして、市で事業等、施策、条例等を決めるに当たりましては、市民、事業者さん、各種団体に対してタイムリーに、速やかに正しい情報を伝えるという役割もございますので、この点につきましては、また全庁的に周知を徹底してま

いりたいと思います。

【副会長】

中木戸という地名はないんですか。

【委員】

地区でしかないと思います。

【副会長】

中木戸という名前は住所表示ではないのでしょうかね。

【企画政策課長】

はい。住所表示としては、ございません。

【副会長】

今回、私どもと大松自治会と、どこまで大松自治会と言っていいのか。そして、私どもは大松1丁目というのですけれども、そうではないところは、どうやったら地名に住居表示を変えられるのでしょうかということなのですが、今度、市に聞いてみます。大松自治会に入ったところ、大松1丁目にしたいなと思うのですけれども、そういうことがどうやれば、どういう手続で住居表示を変えられるのか。我々のところも、もともと根の1992-1と言っていたのですが、市になったときに、大松1丁目と変わったので。今入った自治会の方は、地域のところは根の何とかと言うのですけれども、そこも大松1丁目と住居表示を変えられるのか。そういう意味ではいろいろあるのだらうと思いますが。委員の言われるように、そうか、昔からいけば、みんなそういうことでということで、新しく入ってきた人たちに優しい対応というのも大事じゃないかなということが分かりました。

少し時間が過ぎましたけれども、皆様のところでもう一言というのは、画面でもよろしいでしょうか。今日は意見出しということで。

では事務局、よろしく申し上げます。

【事務局】

今回の会議についての御連絡です。次回は、来週28日木曜日、このBグループは午後3時にお集まりいただきます。場所はこの部屋になります。

そのときの会議の議題としましては、今日の質疑応答を踏まえて、審議会として外部評価をどうするか取りまとめを行っていただきます。

それに当たりまして、今日お配り。又は事前に郵送の中で外部評価シート、それぞれの施策について両面で1枚ずつお配りしているのですが、前日27日の正午までに、中間評価という形で、今日の質疑等を踏まえて、各自がどう評価しているか、一度事務局までお寄せいただければと思います。そうしましたら、来週の審議会の時間が非常に短いものですから、できるだけ目で見分けるように、一から説明しなくてもいいように、先に取りまとめて当日お配りさせていただければと思います。

28日の審議会の後、他の委員の方の意見を聞いて、評価を変えようといったこともある

かと思しますので、最終的な個人の外部評価提出は、8月でまた別途日程を設定させていただければと思います。

来週の内容と、それまでにお願ひしたいこととございます。最後、会長、お願ひいたします。

【会長】

なかなか通信がうまくいかなかったところもあって、失礼をいたしました。いずれにしても、今日はワークショップなしで、質疑応答とさせていただきましたが、それでもいろいろなことが見えてきた部分、課題としてもいろいろあるのかなというふうに委員の皆さんもお感じになったところもあるかと思しますので。その辺は評価の中に加えていただいて、また今後につながるようなことにしていければと思いますので、忌憚のないご意見、評価をしていただければと思います。

次回の審議会では、それらを踏まえた上で、またトータルな意見交換ということになるかと思しますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

今日の審議会は、以上で閉じさせていただきたいと思ひます。皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。